

アレルギー性鼻炎(含 スギ花粉症)に対するアレルゲン免疫療法について

●はじめに

アレルギー疾患、特にアレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法(以下免疫療法)が近年話題となっています。原因となっているアレルギーの原因物質(アレルゲン/抗原)を少しずつ体の中に入れていくことでアレルギー疾患の自然経過を修飾し、最終的に治癒させようとするとする治療法です。かつては減感作療法と呼ばれていましたが、今は免疫療法ということで統一されてきています。

免疫療法には大きく分けて2つの投与方法があります。100年以上前から行われていました注射による方法(皮下免疫療法:SCIT)と、約40年前に欧州で開始された舌の下にアレルゲンを投与方法(舌下免疫療法:SLIT)があります。いずれの投与方法においても同程度の効果が得られます。皮下免疫療法では注射しますが、目的の濃度になるまで頻回の通院が必要なことと副反応の頻度がやや多いことがあります。一方安全性が高くなり、痛くない方法としての舌下免疫療法が近年では主流となってきています。国内でできる舌下免疫療法の種類は、スギ花粉とダニの2種類です。

現在免疫療法については、舌下免疫療法が主流となってきています。ここでは舌下免疫療法について解説していきたいと思います。

●免疫療法の適応となる人

上にも書きましたが、国内でできる舌下免疫療法はスギ花粉とダニの2種類のみです。したがってこれができる人は、スギ花粉症の人か、ダニアレルギー(ハウスダストアレルギー)のある方ということになります。アレルギー性鼻炎症状があつて、検査でスギやダニに陽性であれば症状の重症度にかかわらずどなたでもできます。小児ですが、薬の開発時は5歳以上ということで行っていましたが、現在では薬を舌下に1分間保持できることや5分間の飲食禁止、その後激しい運動はしないなど守れるようであれば、5歳以下でも施行可能です。

ただし重症の喘息を持っている方は喘息を誘発する可能性があるためできません。また喘息患者さん、悪性腫瘍の患者さん、自己免疫疾患のある患者さんなどもなるべく投与は避けたほうが良いと思います。

妊娠している方は新しく開始することはできませんが、免疫療法の途中で妊娠が分かったときは継続することは可能であるとされています。

●免疫療法の開始時期

スギ花粉症の方は、スギ花粉が飛び始める1月からヒノキ花粉の飛散が終了する5月までは、体の中でアレルギー反応が亢進している可能性があるため新しく開始する

ことはできません。6月くらいから12月までの間であればスギによる免疫療法は開始できます。ダニが原因のアレルギー性鼻炎の方は、通年性に症状がみられ、好発時期がはっきりしないことから、いつでも始めることができます。ただしスギ花粉症と一緒に持っている方は、最初に書いた理由で6月から12月までの間ということになります。

●免疫療法の薬剤について

舌下免疫療法に使う薬剤は現在錠剤で、ダニに対する薬剤は2種類あります。スギの免疫療法薬は以前液剤でしたが、2018年から錠剤に変わりました。いずれの薬剤も口内で溶けます。

●全般的な事項

舌下免疫療法のメリットとデメリットについてお話しします。

メリットですが、これはただ一つです。「アレルギーが治る(可能性がある)」ということだけです。したがって、アレルギー性鼻炎の症状である、くしゃみ・鼻水・鼻づまりやアレルギー性結膜炎の症状である目のかゆみといった症状が、薬を使わないでも抑えられていくということです。

さてデメリットは五つくらいあります。

一番大きなデメリットとしては、アレルギー反応の誘発です。アレルギーのある人に、まさにそのアレルギーを起こす物質を投与しますので、何らかの反応が起きる可能性があります。その最重症の形がアナフィラキシーショック*です。ただし舌下免疫療法の場合はこの重大なアナフィラキシーショックやアナフィラキシー反応の発生がごく少なく安全性が高いため、世界的に免疫療法の主流となってきています。

*薬剤などによって全身的なアレルギー反応が生じ、生命に危険を及ぼすような反応をアナフィラキシーといい、その反応によって血圧低下や意識障害を伴う場合をいう

重大な反応はないものの、舌下にアレルゲンを短時間ですが接触させるので、局所におけるアレルギー反応というのは一定の確率で発生することはわかっています。局所で起きる反応としては、舌下の粘膜の腫れ(一時的)、耳やのどのかゆみ、のどの違和感、アレルギー性鼻炎症状などが見られます。また全身的な反応として皮膚の発疹やかゆみ、咳など見られることがあります。いずれの症状も治療開始初期に見られ、多くの場合1か月程度で徐々に軽快していくことが知られています。こういった反応について不安がある方は、いつでも相談してください。

二つ目のデメリットですが、この治療法のメリットのところでもアレルギーが治るということを書きましたが、全員が治るということではなく、1~2割程度の方で、効果が現れないことが分かっています。現時点では効果が出る人、出ない人については事前に予測はできません。

三つ目は、この治療法は効果が出るまでに時間がかかるということです。服薬期間は最低でも3年くらい、できればもっと長く続けることが大事です。(今のところどのくらい続けていけばいいかということについては一定の見解はないようです)お薬を飲めばすぐに症状が治まりますが、この治療は服薬を続けることで体内の免疫反応をゆっくり変化させることで治していきます。ウサギとカメ(あるいはもっと遅いかもしれない)の競争のようなものです。

四つ目は、三つ目のデメリットとも関連しますが、当初はアレルギー性鼻炎症状に対して抗ヒスタミン薬や点鼻薬の使用が必要であるということです。3年以上続けていくということで、免疫療法にかかるコストとしばらくの間は症状を抑えるための内服薬などにかかるコストの両方がかかることになります。

最後のデメリットですが、これはスギ花粉症の方に当てはまります。スギ花粉症の7割以上の方がヒノキ花粉症も発症しています。免疫療法ではスギ花粉のみをアレルゲンとして行っていますので、スギ花粉の飛散時期には効果が現れますが、ヒノキ花粉の飛散が始まると急に症状が出てくることがあります。スギ花粉に対しては症状発現抑制ができてヒノキ花粉に対しては効果がないことが多いです。

以上が、舌下免疫療法のメリットとデメリットです。

●次に具体的なことをお話します。

1. まず免疫療法を始める前に、実際スギやダニにアレルギーがあるかどうかを検査します。当院では血液中の(スギやダニに対する)抗体検査を行っています。
2. 少ない抗原量の錠剤から始めます。舌の下に錠剤を置いて、1分間または溶けるまでそのままにしておきます。その後飲み込みますが、飲み込んだ後5分間は飲食は禁止となります。また内服後最低1時間くらい、できれば2時間は激しい運動などは避けるようにします。

初回投与時のみ外来で行います。投与後30分間は外来で待機してもらい、副反応の有無を観察して帰宅ということになります。

3. 1週間後に再診してもらいますが、特に大きな副作用がなければ、維持量となる多い抗原量の錠剤に変更します。3年から5年くらい毎日継続して服薬してもらうことになります。

服薬中、風邪をひいたり、口内炎ができた、歯の治療をして口の中に傷ができた、など一時的に服薬を中断することが必要な時があります。そういった状態になった時は相談してください。

以上が外来での具体的な流れになります。

不明な点、疑問点などありましたら外来で訊ねてください。